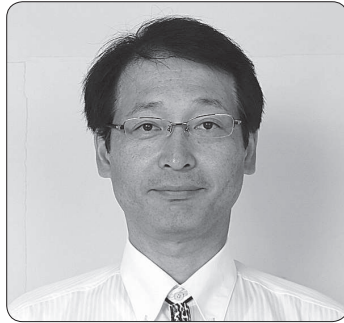


連合滋賀推薦 野洲市・湖南市長選挙 山仲よしあき・たにはた英吾

告示：10月7日 投票日 10月14日



野洲市長選挙予定候補者 山仲 善彰 湖南市長選挙予定候補者 谷畑 英吾

飢餓に苦しむアフリカの人々へ支援米を送ろう！ 稲刈りボランティア募集中！

日 時：9月15日（土）13時から（15時終了予定）＊雨天の場合は中止
場 所：高島市城山台1丁目1-12（JR近江高島市駅徒歩2分）
作 業：鎌を使って稲刈りをします（汚れてもよい服装でお越しください。長靴をご用意ください。）
問い合わせ：連合滋賀またはアジア・アフリカ支援米滋賀県実行委員会事務局（077-522-7154）

2012 びわ湖クリーンキャンペーン

～みんなで守ろう!! かがやくびわ湖～

ごみのない美しいまちづくりに
働く仲間の力を結集しよう！

9月30日（日）午前中 荒天の場合は10月14日（日）

近江八幡地区は9月29日（土）実施

※集合場所や時間など各地域の取り組み計画は各地区労働者福祉協議会にお問い合わせください

主催：滋賀県労働者福祉協議会

日本労働組合総連合会滋賀県連合会（連合滋賀）

協賛：近畿労働金庫滋賀地区統括本部・全労済滋賀県本部・滋賀県勤労者住宅生協・滋賀県生協連合会



連 合 滋 賀

日本労働組合総連合会滋賀県連合会

2012年8月30日
連合滋賀 第235号
大津市松本2丁目10-6
電話077-523-0500
発行・山田 清
編集・上田 薫
(定価 1部6円)
印刷 ユメディア株式会社

滋賀県最低賃金改正 716円で結審

2012年度の滋賀県最低賃金について審議する滋賀県最低賃金審議会が、8月9日に開催され、現行709円にプラス7円とする716円で結審し、10月6日から発効することになりました。

私たち労働者側は、最低賃金法の目的である低廉な労働者を下支えし、その労働条件を整備するため交渉を進めてきました。特に雇用戦略対話における合意でもある「早期に全国最低800円を確保し景気状況に配慮しつつ、全国平均1,000円をめざす」との合意を背景に連合試算のリビングウェイズ870円を目標金額としながら、2012年春季生活闘争の時間給の引き上げ額等を参考に大幅な引き上げを求めてきました。

使用者側は、「県内の有効求人倍率、倒産件数などいずれにしても悪い指数となっている。まずは、雇用を優先させるべきである。」との姿勢を崩しませんで

した。このため、公益側の「目安+3円の引き上げ」の見解を支持し、最終的にプラス7円とする716円で結審しました。

連合滋賀では、労働組合の普遍的な活動の重要性を改めて強く認識し、これまで積み上げてきた地道な活動をさらに発展させつつ、最低賃金制度の発展に向け、春季生活闘争とその後の最低賃金の取り組みとの連動を強めながら、最低賃金運動の強化のため全組織が不退転の決意で取り組みを強化しなければなりません。

貴生川駅で街頭行動「連合滋賀の日」

連合滋賀と第4区地域協議会は、8月2日に、JR貴生川駅で「連合滋賀の日」街頭行動を行いました。この日は、8万人連合滋賀にむけた組織拡大と、8月上旬をヤマ場に審議会での議論が行われている滋賀県最低賃金の連合滋賀リビングウェイズ額870円を目指しての取り組み、さらには連合滋賀の政策等をアピールしました。

街頭アピールでは、連合滋賀山田会長をはじめ、連合議員団から、西川勝彦県議会議員、森嶋克己甲賀市議会議員に参加いただき、県議会、市議会での活動報告と連合滋賀のはたらく仲間や市民の声を県政や市政に反映させていくと訴えました。



核兵器廃絶と世界の恒久平和を求めて

連合は8月4日～6日にかけて、核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現を目指す2012 平和行動 in 広島を実施し、続く8月7日～8日、核兵器廃絶2012 平和長崎大会が開催されました。広島では連合組合員など6,500人が参加、長崎では4,500人が参加しました。

連合古賀会長は、「原爆投下から66年が経過した今なお、後遺症により多くの人々が苦しんでいる実態があり、このような兵器がいまだ存在しているという事実は世界平和の脅威となっている。『核兵器の廃絶』に向けて世界へ強く広く働きかけを続けていくと挨拶されました。

電機連合 NECライティング労働組合 清家 耕平

広島での平和行動に参加しました。3日間の行動で、初日は「核兵器廃絶2012平和ヒロシマ大会」に出席、翌日はピースセミナーで被爆者の体験談をお聞きし、終了後、ピースウォークとして、平和公園内の慰霊碑を巡りました。そして、原爆の日である最終日は、平和式典に出席しました。

今年で広島に原子爆弾が投下され67年目を迎えますが、今なお原爆による放射線障害に苦しむ被爆者が数多くおられるということ、今日でも世界には約1万9千発もの核兵器が存在するという事実、驚きを感じると共に、何とも言えない歯痒さと憤りを感じました。

一昨年前の福島第一原発での未曾有の事故以降、原子力に依存しないエネルギーへの政策転換が声高に叫ばれるようになりましたが、依然として原子力発電所は世界中で稼働し続けています。私たちは、原子力発電を再認識し、二度と同じ過ちを繰り返さないためにも核兵器廃絶とともに、原子力発電の安全性について、後世に先送りすることなく、今一度、検証しなければならぬ時期に来ているのではないのでしょうか。

J P 労組 滋賀連絡協議会 杉本 つぐみ

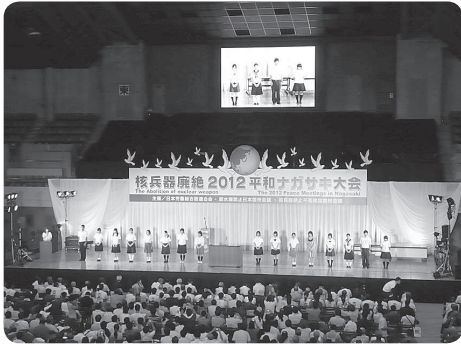
2012年平和行動in長崎に参加しました。

原爆が投下されたということは当然知っていましたが、その被害に遭われた方の心情や、今現在に至る苦しみを実感として考える機会がありませんでした。

原爆が投下された場所を目にした時、67年前の8月9日、この場所で多くの人が熱線や火災で苦しみがながら最期を向かえたかと思うと、直視できませんでした。『助けて』という情景が目には浮かびました。

戦争は二度とあってはならないことであり、人々の生活を始め、その人たちの将来まで奪われることは何よりも悲しいことです。

原爆投下で広島と長崎の人々が一番酷い目に遭われ、今では原爆被害者として生活をされているのを改めて知りました。福島原発でも不安の中での生活を



余儀なくされていると思います。これらのことは決して風化させてはならないことだと考えます。

UIゼンセン同盟 東レ・ファインケミカル労組 小野 宏幸

今回の長崎での各種行事に参加させて頂き、印象に残ったことは、子どもや母親、市民、傷ついた兵士や捕虜を殺傷することは「国際人道法」で犯罪とされ、毒ガス、細菌兵器、対人地雷など人間に無差別に苦しみを与え、環境に深刻な損害を与える兵器も「非人道的兵器」として明確に禁止されているなか、いまだ無差別に殺戮する核兵器を禁止する条約がないことでした。被爆から67年が経過し被爆者の平均年齢も77歳を超えており被爆体験など継承に力を入れていることや、現地の方に話を聴くことができた等、現地に来なければ知りえない事も今回知ることができました。

戦争や原爆、長崎・広島について知識として学んでいましたが初めて現地を見て、話を聞いて、感じると今まであまり考えなかったが平和活動など連合として取り組むことの必要性を感じる事もできました。今回の平和行動への参加は戦争や平和について考える良い機会となりました。

次回の長崎平和行動では、青年委員会や所属組織で千羽鶴などを作り現地に献納するなど、平和活動として取り入れて連合滋賀の代表者として意識し参加してはと思いました。

十津川村の復旧に向け 自分たちにできることはないか！ 連合近畿ブロック青年会議を十津川で開催

2011年8月31日より9月4日までの5日間、台風12号による豪雨で、奈良県十津川村に甚大な被害が出ました。2008年に十津川村で「近畿ブロックユースラリー」が開催されたこともあり、参加した青年たちから、「自分たちにできることはないか」と問い合わせもあり、7月27日～28日に、「連合近畿ブロック青年会議」が十津川村で開催されました。

十津川村役場の方からは、「大水害によって「情報不足と孤立」という大きな問題が浮き彫りになり、電信柱も倒れたので、ケーブルテレビ、インターネット、電気、電話がすべて途絶え、情報がないので周りの状況も掴めず精神的に不安定な状態となった。そんな中、役場に一台だけある衛星電話で外部に連絡し、緊急災害対策派遣隊、自衛隊、他の市町村から支援が得られ、復旧に向けて動き出せた。」と災害時の状況、復旧状況などの説明などを受けました。

現在も86名の方が、他地域や仮設住宅で避難生活を送っておられます。災害から10カ月たった今も道路をはじめ様々な箇所ですべて復旧工事をしており、山間部はまだ倒木がそのままの状態であり、まだまだ復旧には時間がかかりそうです。被害の甚大さを目の当たりにし、自然の



十津川村の倒木



脅威を改めて感じました。また、村の方だけでなく様々な方が共助の精神で復旧・復興へ向け協力していることに感銘を受け、具体的に復興プロジェクトを実行されていることにパワーを感じました。

先日も大津市南部で大雨による被害が出ているので自分としてできることを見つけ、協力していきたいと思います。(青年委員長 水田学論)

おじいさん おばあさんへの笑顔と歌のプレゼント♪ おうみ少年少女合唱団 老人福祉施設を訪問

おうみ少年少女合唱団は、さる7月27日(金)に午前中は大津市上田上の特別養護老人ホーム「桐生園」と午後から大津市見世の特別養護老人ホーム「ケアタウンからさき」を訪問して演奏を行いました。

この演奏会は、夏休み恒例の活動になっているもので、施設を訪問してお年寄りも良く知っておられる「手のひらを太陽に」「四季の歌」「見上げてごらん夜の星を」などを演奏しました。



〈団員の感想〉

毎年、この施設訪問を私たちみんなとても楽しみにしています。お年寄りの皆さんは私たちの歌を笑顔で聞いてくださったり、一緒に口ずさんでくださったりして、私たちが元気を分けていただきました。

このような貴重な時間を与えていただき、本当に感謝しています。(高校1年 勝嶋 桃里)